

令和7年度 第3回名古屋市日中サービス支援型グループホーム運営評価会議
評価結果（令和7年10月27日開催）

（事前評価）

法人名称	特定非営利活動法人バウムカウンセリングルーム
事業所名称	日中支援型共同生活援助やまぶき
事業所所在地	名古屋市港区十一屋 2-85-1
評価結果	<p>下記の内容に留意し、適切な事業運営を実施されたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・日中サービス支援型グループホームの趣旨や理念を事業所全体で正しく理解し、経営目線ではなく、利用者主体の支援体制を整えた上で利用者の受入をすること。・行き先が見つからない人を受け入れる方針であることは評価するが、適切なサービス提供体制を整えた上で受入を行い、無理のない受入に努めること。・障害特性や権利擁護など日中サービス支援型グループホームにおける利用者支援に必要な研修を検討した上で、全職員に定期的に行い、適切な支援を実施すること。・個別性に配慮した支援が行われているかを定期的を確認し、実施すること。・現在の宿泊型自立訓練において、直接支援を実施する派遣職員に対する研修体制が十分に実施されていない。利用者の生活を支える職員としての最低限の知識を学ぶ研修を従事前に実施すること。・事業所で行う日中支援プログラムについて、現在、宿泊型自立訓練で行っているプログラムをそのまま実施するのではなく、日中サービス支援型グループホームとのサービスの違いを理解した上で、制度の目的に沿ったプログラムを検討して実施すること。・区自立支援協議会に引き続き参加し、障害者基幹相談支援センターとの連携を強化するとともに、利用者支援に必要な地域の社会資源を把握した上で関係づくりや連携強化に努めること。・日中サービス支援型グループホームに求められる地域生活支援の中核的な役割について十分に検討し、必要な取組みを行うこと。・個々の利用者の希望や状況を積極的にモニタリングする体制を整え、現状にとどまることなく積極的な支援方針の検討を行うこと。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・自らの意思を決定することが難しい利用者のために、意思を尊重した入居やサービス提供の決定に必要な配慮を行うこと。・職員体制や事業所都合で支援するのではなく、利用者のニーズをしっかりと聞き取り、利用者が希望する生活スタイルが実現できるようにすること。・外部の研修を積極的に活用すること。・虐待の取組みや不適切支援について、職員同士でけん制し、互いに抑止力が働くよう職場環境づくりをすること。・名古屋市への事故報告について、事故報告すべき内容等を正しく理解して適切に実施すること。・入居契約時に利用者本人が金銭管理を行う場合についてのみ、2 か月分の家賃を利用者から徴収しているとのことであるが、利用者から前受け金を徴収することについて適切であるか確認を行い、必要な見直しを検討すること。・宿泊型自立訓練と日中サービス支援型グループホームは、全く異なるサービスであり、対象となる利用者も異なるはずであるため、宿泊型自立訓練を廃止するにあたり、現在、宿泊型自立訓練を利用している方や家族に対し、利用者本人の意向を丁寧なモニタリング等を行ったうえでサービスの移行を行うこと。 |
|--|---|